

質問箇所	質問・意見	事務局回答
第2期「宮崎及び市町村地方創生総合戦略」のKPIについて	<p>● 評価手法について</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けたため「-（評価できない）」という評価結果となった指標は、今後も評価できないということが続いていくと想定されるが、指標から外す、柔軟に対応して目標値を下げる等、どのように対応していく考えなのか。</p>	<p>【宮崎市】</p> <p>第五次宮崎市総合計画について、基本構想期間の変更（10年から7年）に伴い、基本計画期間を変更（基本計画期間が前期5年、後期5年であったが、基本計画自体を7年とする）する予定であり、延伸する2か年分の新しい目標値の設定が必要となる中で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて「-（評価できない）」となった指標についても見直しを行う予定。それと連動する形で総合戦略の指標についても見直す予定。</p>
第2期「国富町まちづくり重点目標及びKPI」の創生評価・検証について	<p>● 【重点項目4 人材の育成】の重点目標「県内新規学卒者の就職内定者のうち県内就職内定率」について</p> <p>県外出身者が大学進学で宮崎に来て、その方は就職でまた県外に流出するという考えの一方、一旦県外の大学に進学された方が、実は県内に就職で戻ってきているのではないかと、または割と東京圏出身の方が就職において、宮崎を選択するというケースもあるのではないかと考えている。そういう意味では、宮崎市、宮崎県という場所が住みやすく、働く場所として選ばれることも多いと思うため、そういう流入数というものも今後の指標の一つとして、設定してはどうか。</p>	<p>【宮崎市】</p> <p>大学生の県内就職者数が低いという状況はこれまでも続いているため、担当課とも協議して、その様な数値のカウントの可否について検討していきたい。</p>
第2期「国富町まちづくり重点目標及びKPI」の創生評価・検証について	<p>● 【重点項目2 医療・福祉の充実】のKPI「障がい者相談支援延べ利用者数」について</p> <p>障がい者の利用相談件数について、コロナ禍で増えているだろうと考えられるが、相談のしやすさという視点でKPIを設定しているのか。</p> <p>一方で、宮崎市は相談件数が増加していく目標値を設定しているが、増えていることでの対策については何か検討しているのか。気軽に相談できることで相談件数が増えていくことが良いことなのか、あるいは相談を不要とする施策を検討しているものなのか。</p> <p>● 評価手法について</p> <p>「評価1」の指標は、そのほとんどがコロナの影響ではないかと考えているが、あえて「-（評価できない）」という評価にしなかったのは、未だ目標達成の見込みがあるという考えなのか。それとも、今後も「評価1」が続くという考えなのか。</p>	<p>【国富町】</p> <p>コロナ禍であっても、障がい者の方にとっては、やはり相談はしないといけないということで件数は維持されているものと考えている。いただいた意見については、宮崎市と連携を図りながら検討していく。</p> <p>【宮崎市】</p> <p>資料1-2の13ページに、課題と方向性等の担当課の考えを記載しているが、国富町と同様、コロナ禍に関係なく、この数値は増えていくこととなるかと考えている。相談件数の増加に対しては、コーディネーターの配置等を通じて相談体制の強化を図っていくべきであるため、1市2町が協力して、体制整備を図っていくものと考えている。</p> <p>【国富町】</p> <p>コロナの影響については、直接的に受けている部分がある。小規模自治体では、業務を兼務している職員が多く、特に、人材育成や周囲を巻き込んだ取組では、人的・時間的な確保が難しい部分がある。施策を実施することで、住みよいまちづくりが推進されることは担当も理解しているので、実施できる状況になったら、連携できる部分を増やしながら、取り組んでいきたい。</p>
第2期「綾町まちづくり重点目標及びKPI」の創生評価・検証について	<p>● 【重点項目5 雇用の場の創出】のKPI「女性の就労支援事業を活用した就職者数（累計）」について</p> <p>残念ながら0人ということになっている。これは女性に拘られているかというか、恐らく女性の社会進出や一人親家庭などもあると思うが、女性が社会進出していない実感としてどの様なものがあるのか、だからこのように限定されていると思うが、いかがか。</p> <p>また、一人親家庭では福祉ラインと連携はされていたのか。</p>	<p>【綾町】</p> <p>女性の就労支援については、（小規模自治体では業務を兼務していることが多く）限られた人員で取り組んでおり、雇用政策、企業誘致関係についても総合政策課で所管しているが、なかなか手が届いていない状況である。</p> <p>女性を意識した取組については、町職員にも女性が多く入庁している状況のため、女性の意見の重要性が役場内でも高まってきていると感じている。実際、施策レベルでは、報告できるものがなく、そのことについては申し訳ない。</p> <p>【国富町】</p> <p>国富町内には男女共同参画を推進する「くにとみブリッジ」という団体があり、そういった方々と意見交換をする中でも、女性の社会進出が阻害されている要因等について意見を伺うことがあるため、そこに対する施策については、そういった民間団体と進めていきたいと考えている。</p>

質問箇所	質問・意見	事務局回答
<p>第2期「綾町まちひと・しごと創生総合戦略」の重点目標及びKPIの評価・検証について</p>	<p>● 南海トラフ地震と物流について</p> <p>最も企業が不安視していることは南海トラフ地震であり、国富町、綾町などの内陸の自治体と連携することで、同じ市郡の中で物流形態が促進され、雇用安定というところにもつながるのではないかと考えている。</p> <p>物流については、一年間を通じて上がり下がりがなく、ある程度平準化した輸送であればコスト削減にもつながる。</p> <p>1つは、一定数の野菜も必要だが、もう1つはカット野菜などの二次加工の工場を設けると安定したものが生まれると考えている。南海トラフの話にもつながるが、物流の倉庫が内陸部にあれば、インフラ整備も含めて、工業製品、農産品の流れが変わるのではないかなと考えている。</p>	<p>【綾町】</p> <p>まず南海トラフについては、NTTやイオン九州との災害協定締結、有事の際の企業との連携などを進めており、様々な方面でありがたいお話をいただいている。近年、綾町では大きな災害が発生していないが、上下水道で危惧していることもある。1市2町連携して、様々な部分を補強していきたい。</p> <p>次に物流については、例えば、ふるさと納税は有機野菜を中心に好評いただいております、定期便という形で年間を通じてお届けする取組も実施している。綾町は農業関係で物流の平準化を図っていきたいと考えている。</p> <p>【国富町】</p> <p>災害対策については、綾町と同様の取組を進めており、地震の津波による被害はないだろうと想定しているが、避難の受け皿として、隣接する宮崎市、綾町と連携して避難対策を進めていくのは同じと考えている。</p> <p>最近のゲリラ豪雨等については、国富町内でも一部冠水し、道路が寸断される可能性のある箇所もあるため、そういったインフラ整備、環境整備は進めていかないと物流等にも影響するものと考えている。</p> <p>国富町はスマートインターチェンジもでき、物流についても有利な状況にはなっていると考えるが、周辺エリアの土地・環境の問題、土地利用の制限もあるため、その辺をクリアしながら対応したい。土地利用等については情報発信、また提供いただきながら推進していきたい。</p> <p>【宮崎市】</p> <p>南海トラフ地震が発生した場合、宮崎市が最も被害を受ける可能性が高く、そういった観点から生目の防災拠点等を整備し、有事の際は1市2町が共同で活用していくことと考えている。</p>
	<p>● 移住者と地域コミュニティについて</p> <p>私は綾町に移住してきたのだが、移住と地域のコミュニティの活性化について、どのようにマッチングしていくのか。移住促進というよりも、例えば有機農業をやりたい移住者を募るのもありだけれども、一旦転出された方を呼び戻す施策、つまりは地元に戻ってきてもらう施策の方が親や土地もあることから、1石2鳥、3鳥の取組になるのではないかと考えている。今後の方向性として、移住促進の一方で、地元で育った子どもが、地元の魅力を感じ地元に戻りたい、地元で雇用をもっていきたい、という新たな方向性を検討していくことはいかがか。</p>	<p>【綾町】</p> <p>移住する若者に対して賃貸の家賃補助、さらにはバスの定期券の補助、住宅購入の補助を行っている。また、綾町について知っていただく取組として「ユネスコスクール」などを行うとともに、小さい子ども達に住み良いまちに関するスケッチをお願いしており、そこから施策を検討するなど、愛着のわくような取組を進めているところである。今後は子どもの教育というところを重点的に取り組む必要があると考えている。</p> <p>【国富町】</p> <p>国富町は社会動態で社会増となった状況である。国富町が実施する「働く若者定住促進事業」の中で、支援金を支給する要件に自治会への加入を設定しているが、それを理由に断られるケースはない。この様な若い方々が将来的には地域の担い手としての活躍を期待しているところである。</p> <p>「移住者の中で就農された方」について、昨年度の専門部会の中でご質問いただいたが、実績としては、就農された方はおり、もともと国富町に親戚がいたことが要因であったとのことであったため、地元との繋がりは大きいと考えている。</p> <p>【宮崎市】</p> <p>移住支援策としては、宮崎市に移住した方を対象に、一定の職に就いていただくことを条件に支援金を補助しているところ。宮崎市内あるいは県内で育つ若い方々に、いずれは宮崎に戻ってきていただいたり、農業に従事していただくという施策については、地域自治体制度を敷いており、それぞれの地区毎にまちづくりの観点から、自分の住むまちに誇りを持つということにも取り組んでいるところ。加えて、教育の場において、子どもたち、特に中学校においては、色んな職業が宮崎にもあるということを知り、明日を担う子ども達のために、宮崎市としても、移住支援という視点からではなく、可能な限り郷土のみやぎきに愛着を持っていただくまちづくりに取り組んでいるところである。</p> <p>補足として、移住者に対する農業での支援については、宮崎市に移住された方に対して、国の補助事業で「農業次世代人材投資事業」というものがある。これは、年間150万円を3年間助成するというもので、昨年度の実績では、18名のうち3名が県外の方であり、移住者に対する農業分野の支援として行われている。</p>

質問箇所	質問・意見	事務局回答
第2期「綾町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点目標及びKPIの評価・検証について	<p>●【重点項目1 子育て支援の充実】のKPI「障がい児相談支援延べ利用者数」について</p> <p>目標値に対して実績値が随分高いが、これはどういうことからなのか。これは困ってらっしゃる方が結構いるんじゃないかと思うが、障がい児に対してどのような施策を行っているのか。</p>	<p>【綾町】</p> <p>個別の事業の詳細については把握していないが、包括支援センター等において、地域に根ざした支援を推進しており、保健師も増員した中、コロナ禍の状況下でもきめ細かい支援を行っており、その中で相談件数が増えてきているものと考えている。</p>
第2期「みやざき共創都市圏ビジョン」の重点目標及びKPIの評価・検証について	<p>障がい児の就学支援であるとか、施策は何かあるのか。</p>	<p>【綾町】</p> <p>現在のところない。</p>
第2期「みやざき共創都市圏ビジョン」の重点目標及びKPIの評価・検証について	<p>● 移住について</p> <p>人員不足、人手不足ということがあったが、「移住」ということは日本国内での移住なのか、外国を含めての移住なのか。</p> <p>(ご意見のみ) 日本国内で人口減という状況の中、人口の取り合いではなく、1市2町で同じ方向を向いて、魅力を発信するなど、さらに協調するだけでなく、その方向についても考えていかないと、ほかに後れをとるのではないかと考えたところ。</p>	<p>【宮崎市】</p> <p>日本国内での移住を念頭においたもの。</p> <p>—</p>